

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第3部門第2区分  
 【発行日】平成23年12月8日(2011.12.8)

【公表番号】特表2011-503008(P2011-503008A)  
 【公表日】平成23年1月27日(2011.1.27)  
 【年通号数】公開・登録公報2011-004  
 【出願番号】特願2010-532334(P2010-532334)  
 【国際特許分類】

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 P 37/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 39/395 F

A 6 1 K 39/395 U

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 37/00

【手続補正書】

【提出日】平成23年10月20日(2011.10.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

強皮症の治療のための医薬の製造における、I型インターフェロン(IFN)の拮抗薬の治療上有効量の使用。

【請求項2】

1種以上の強皮症随伴症状の治療のための医薬の製造における、I型インターフェロンの拮抗薬の治療上有効量の使用。

【請求項3】

前記拮抗薬が抗体である、請求項1又は2に記載の使用。

【請求項4】

前記抗体が抗IFN R抗体である、請求項3に記載の使用。

【請求項5】

前記抗体が抗IFN 抗体である、請求項3に記載の使用。

【請求項6】

症状が皮膚線維症、皮膚病変、脱毛症、炎症、皮膚肥厚、コラーゲン沈着、タンパク尿、及び補体沈着からなる群より選択される、請求項1又は2に記載の使用。

【請求項7】

抗体が約0.03 mg/kg～約30 mg/kgの量で用いられる、請求項1又は2に記載の使用。

【請求項8】

前記治療が改良型ロッドナンスキンスコアで測定される症状の改善をもたらす、請求項1又は2に記載の使用。

【請求項9】

前記治療がレイノー状態スコア(RCS)で測定される症状の改善をもたらす、請求項1又

は2に記載の使用。

【請求項 1 0】

前記治療が患者皮膚試料に対して行うqPCR解析で測定される症状の改善をもたらす、請求項1又は2に記載の使用。

【請求項 1 1】

前記治療がMPO、TNF、IL-6、及びINOSからなる群より選択される炎症性遺伝子発現を減少させる、請求項10に記載の使用。

【請求項 1 2】

前記治療がKLF10、TIMP、EPGN、及びMMP9からなる群より選択される組織再構築関連遺伝子発現を減少させる、請求項10に記載の使用。